

## 中国への教職員派遣事業

# 中国で見た教育にかける熱い思い

文：神 研二郎（総務課）



東北師範大学の日本留学生予備学校

2003年12月に中国教員等100名を日本に招へいした事業で訪問した愛知、徳島、鳥取、熊本の4県の学校の教員等11名とともに、2004年4月25日からの8日間、北京、天津、長春そして大連の4都市の学校と文化施設等を視察した。その中から2都市について印象を紹介する。



南開大学附属小学校児童の体操風景（天津）

### 天津の小学校視察

歴史的建築物を中心にした街づくりが印象的な北京とは違い、天津は中国の発展を肌で感じるような街だ。イギリスの統治時代の町並みは、2008年北京オリンピックに向けての建設ラッシュと自動車の洪水に押しつぶされ、汚染された空気に、止まない自動車の騒音、どこまでも続く超高層ビルの巨大なネオンがこの都市を眠らせない。

天津の有名大学である南開大学の附属小学校と中学校は同大学の広大なキャンパスの一角にある。キャンパスには川が流れ、池や芝生広場があり、外部の騒々しさとは別世界のようにであった。私たちは小学校を訪れ、毎日行われるという全校児童の体操を校庭で見学した。日本の小学校でもありそうな音楽に合わせた体操は30分ほど続いた。

授業参観は特別に用意された3年生の英語の時間だった。若い女性の先生は、本物の果物を使って30人ほどの児童たちの興味を引き、グループ同士の競争心をあおり、ほとんど全て英語で授業を行なった。「りんごは好きですか?」「はい、少しください。」「どうぞ。」という会話がうまくできるとごほうびがもらえる。児童はみ

なとも積極的で、見ている我々までも参加したい気にさせられた。うまくできたグループには「花まる」が加算され、終わりには優勝グループに果物が配られた。

児童の多くは南開大学教職員の子もたちで、確実に優遇された状況であると思われた。行動派らしい女性の校長先生は、一人っ子政策のため、家庭ではわがままに育てられる傾向のある子どもたちに、「人を思いやる心」や「人を愛する心」を養うのが学校の役目であると説明された。この学校では、国内の貧困地域の学校に物資等の援助を行い、助け合いの精神も教えているという。

参加した日本教員からは、学校と保護者の連携体制等についての質問が出され、中国の教育現場の生の声を聞く良い機会となった。また、日本語を話せる児童数名も話し合いに同席し、たくさんの友達との楽しい学校生活の様子や将来の夢などを聞くこともできた。

### 長春で日本語を学ぶ

社の都と称される長春市の中心部は、他の中国の都市と同じく、高層ビルが乱立する。ただ、所々に、日本統治時代に



ウイグルの学生と日本教員(左)の懇談(長春)

建てられた日本式の建築物が見られ、それらが公園の緑と相まってより落ち着いた雰囲気をかもしだしていた。地元の人には、たとえ苦い歴史の産物であっても建物には罪はなく、むしろ長春の特色として残すべきであるという考えが多いそうである。中国人の事物への対応の仕方、考え方に学ぶことも必要であろう。

長春市郊外の立派な東北師範大学の新しいキャンパス内にある、日本政府が支援する日本留学生予備学校を訪れた。日本の最新情報も収集できるコンピューター室や図書室などの設備や授業風景を見学した後、ウイグル族の学生たちと歓談する事ができた。ウイグル語で教育されたため、中国語でさえ習得中という彼らの中には、日本に行く時期も留学先もまだ決まっていない者も多かったが、日本語を学ぶ熱心さが印象に残った。

### 団結と向上心を育てる教育

外国に支配された歴史を持つ中国では、政府は占領した外国を非難するだけではなく、人々に「自分たちが弱かったために外国に占領された」「みんなで強い国を作り祖国を守ろう」と国民の団結と向上心を育てているようである。教育においても生徒と教師が目標に向かって奮起する姿勢と雰囲気を感じた。

しかし、うっかりすると弱肉強食型社会の大国となりがねない中国は、今後はより公平な教育の達成などの課題に立ち向かう事になるだろう。ことによると、全く新しい中国式の教育方針で諸外国に負けない強い国を作っていくのかもしれない。